

第 20 回精華町環境推進委員会 会議録

会議の名称		第 20 回 精華町環境推進委員会
開催日時		令和元年（2019 年）12 月 20 日（金） 14 時 00 分～16 時 30 分
開催場所		精華町役場 図書館集会室
出席者	メンバー	上甫木委員（委員長）、畑中委員、寺本英樹委員、井澤委員、木下委員、鷹居委員、山本委員
	事務局	精華町 健康福祉環境部 岩前部長 精華町 健康福祉環境部 環境推進課 竹島課長、藤原課長補佐、奥村主事
欠席者		寺本和生委員、井上委員（副委員長）
議 題		議事 ① 委員長の選出 ② 精華町の環境（平成 30 年度分）（案）について ③ 第 1 次精華町環境基本計画総括（素案）について
資 料		資 料 1 令和元年度スケジュール（予定） 資 料 2 精華町の環境（平成 30 年度分）（案） 資 料 3 第 1 次精華町環境基本計画総括（素案） 参考資料 1 第 19 回精華町環境推進委員会会議録 参考資料 2 第 19 回精華町環境推進委員会ご意見およびご対応（案） 参考資料 3 精華町版環境日記 2019 子どもアンケート調査票
傍 聴 者		なし

1. 開会

- ・委員の委嘱について
- ・委員紹介
- ・健康福祉環境部長あいさつ

2. 議事

① 委員長・副委員長の選出

・委員長選出

精華町環境推進委員会規則第2条第1項の規定により、委員長は委員の互選により、上甫木委員に決定。

・委員長あいさつ

・副委員長選出

精華町環境推進委員会規則第2条第3項の規定により、委員長からの指名により、井上委員に決定。

② 精華町の環境（平成30年度分）（案）について

上甫木委員長：それでは、次第に沿って進めていきたいと思います。議事2について事務局からの説明を受けたいと思います。

事務局：資料1、資料2について説明させていただきます。

○資料説明（事務局） 資料1、資料2について説明

上甫木委員長：本日、初めてご参加いただいた委員もおられますので、分かりにくい部分もあったとは思いますが、精華町では、精華町環境基本計画に定めた目標について、毎年どのように取り組みが進んだのかを、年次報告という形で取りまとめを行っています。

山本委員：容器包装ごみの分別が、自治会のイベントでも減ってきている。地元の祭りなどでも、以前はすすいで再生資源として出していたが、最近はなんでも燃やしたら良いという意識になってきている。

井澤委員：女性の会でも、先日、食品ロスについて勉強会を行い、最初にごみの分別の話もしてもらったが、その際にも、参加者の実感として容器包装ごみとして出

されているものが、以前に比べると3分の1程度になっているという話が出ていた。分別については、以前と変わらないということを伝えていく必要がある。この頃は、みんなの中にちょっとでも汚れたプラスチックごみは燃やすごみとして出すという意識が定着してきている。

事務局：先日、ごみの組成調査を実施しましたが、かなり、リサイクルできる容器包装ごみが入っている状況でした。焼却場が新クリーンセンターに替わった際のごみ分別の伝え方に、誤解につながる部分もあったので、今後も引き続き、ごみの分別についての普及啓発に努めます。

井澤委員：ごみの現状について、現在役場入り口に展示されている食品ロスの写真だけでなく、プラスチックの入った現状の写真などを紹介されてはどうか。

事務局：一昨年からの3年間は京都府立大学との共同研究として、食品ロスをテーマに組成調査を行っており、研究テーマに沿った写真を撮影しています。

上甫木委員長：この委員会でも、以前、集めた資源ごみの分別を実際に行なっておられる現場に視察に行った事がある。実際に目にすることで意識も高まるので、見学会などを行うのも意識啓発に繋がるのではないか。

鷹居委員：連節バスについてですが、まだ、あまり利用されていないと思う。みなさんはどのように感じておられるのでしょうか。通常のバスの方が良いのでは無いか。

事務局：けいはんな学研都市への企業への通勤などを想定しています。環境省の補助を受け、温室効果ガスの削減等実証事業を行っていますが、今後も引き続き効果検証を続けていく予定です。

畑中委員：連節バスは交通需要とマッチしないのではないか。マース（MaaS：モビリティ・アズ・ア・サービス：色々な種類の交通サービスを需要に応じて利用できる一つの移動サービスに統合すること）の方が合っているのではないか。自動運転については、現在、自動車メーカーでも凌ぎを削っている状況である。以前から、けいはんな環境・エネルギー研究会でもEVの話も上がっていた。

事務局：精華町内では、連節バス以外にも、シェアサイクルの実証実験が先日行なわれ、一定、利用者がおられました。

木下委員：住民にとって身近な環境の取り組みは、基本はごみの減量だと思う。プラスチックを使うことの意味を考え、プラスチックの使い捨てを減らすことを考えなければいけない。そういうところが大切。環境日記で頑張っている子どもたちは、一部ではないか。町としても広い対象に啓発ができないか。

畑中委員：町として、脱プラスチック宣言をして、町の会議ではプラスチックを使わない会議を行うなど、出来ることから取り組んでみても良い。

上甫木委員長：子どもへの環境教育についての話が出たが、環境日記は非常に良い取り組みであり、他の小学校にも是非広げていただきたい。

事務局：環境日記について、精華町での取り組みは今回が7年目ですが、今年の全国

大会ではかつて賞を受賞した子どもたちが社会人や大学生になって話をしました。精華町でもぜひ子どもたちの追跡をしてみたいと考えています。

鷹居委員：クリーンリサイクル運動に以前から参加しているが、実施場所を開橋に限定しなくても良いのではないかと思う。ここ数年は、木津川河川敷のごみも少なくなっている。

事務局：実施場所について、主催者としても課題認識は持っていますが、参加者の安全面なども配慮して、現行の場所になっています。

畑中委員：精華町は木津川の中流域のまちで、川辺でプラスチックゴミを食い止めているという意味で活動する意義はあるのではないか。

事務局：上流から流れてくるごみを中流域で海に出るまでに食い止めるという考え方は良い視点と思います。

井澤委員：この頃、河川の氾濫が凄く多くなっている。クリーンリサイクル運動の取り組みに木津川を大切にする話も入れたら良い。精華町は堤防が切れたら、かなり被害が大きいので、その認識を再確認する良い場となる。

畑中委員：木津川流域の市町村に呼びかけて、戦略的に流域で行う意義はある。

上甫木委員長：大阪湾で一番ごみが溜まっているのは成ヶ島、海のごみは陸域から流れきているので、効果はある。それでは、次の議題についてお願いします。

③ 第1次精華町環境基本計画総括（素案）について

上甫木委員長：それでは引き続き、3つ目の案件、第1次精華町環境基本計画の総括について資料の説明をお願いします。

○資料説明（事務局） 資料1、資料3について説明

上甫木委員長：お気付きの所から、ご意見をいただければと思います。

寺本英樹委員：けいはんな学研都市としては、立地企業がほぼ満杯の状態である。まちづくり協議会では、ほとんどの企業がISOに取り組んでいる。これは、企業として当たり前のこととして取り組んでいる。私どもは、複写機のカートリッジを作っている会社であるが、海外では教科書もペーパーレスになってきている。アメリカだと教科書も使い捨てにしていない。アメリカなど6年生は卒業時に次の6年生に渡していく。環境に対する文化として先進的な地域であることに町としても取り組み、アピールしていただきたい。連節バスは、けいはんなの企業からは好評で、従業員が駅からの通勤に大いに活躍しており、大変先進的な取り組みである。地域と連携して取り組んでいきたい。子どもの教育についても毎年、けいはんなに立地するほとんどの企業が中学生の職業体験を受け入れている。毎年、レポートやお手紙をいただき、企業側として負担はあるが、意義があると思っている。行政がどこまで、把握されているのか分からないが、

コミュニケーションを良くすることも重要ではないか。

畑中委員：よくできた資料であると思う。次のステップを考えた時に、COP25 の内容や、脱炭素の取り組みについて RE100、リアクションに参加できる枠組みを国が作ったことで、サプライチェーンも脱炭素化に取り組む流れになる。このような、今後の流れをどのような形で触れるのかがポイントである。

寺本英樹委員：精華町は環境マネジメントシステムを行なっているのでしょうか。

事務局：KES に取り組んでいます。

上甫木委員長：子どもたちの体験学習を受け入れているのは、良い話である。けいはんな地区の企業は自主的に清掃活動も行なっている。地域のクリーンデーなどとの連携が出来ると良いのではないか。

寺本英樹委員：クリーンデーは年2回行なっている。商工会議所とも先日、打ち合わせを行った。相談内容は、ふるさと納税で精華町は6千万円を持ち出しているので何とかならないかというものであった。世界的なシェアを持っている企業も多いので、協議会の会員企業と相談予定である。

鷹居委員：里山が放置されて、だんだん寂れてきているように感じている。環境基本計画の中で、昔からある里山についても次の世代に自信を持って管理をしているという形になれば良い。

上甫木委員長：各リーディングプロジェクトがこの間、どのようは動きがあったのか、確認をすると良いのではないか。

事務局：町が保有している里山については、NPO なども里山整備しています。産業振興課で里山を守る講座を行なって、人材育成を併せて行う予定と聞いています。

上甫木委員長：里山の現状について、原課に確認いただき、町として整理されると、次の目標の設定の仕方が見えてくるのではないか。

事務局：環境プラットフォームのメンバーに事業者も参加いただけると、より、多様な団体との繋がりができると思いますので、お忙しいとは思いますが、是非ご参加いただきたい。

寺本英樹委員：まちづくり協議会の活動の委員会や活動部会があり、企業同士の中で持続可能なことをするために、予算を付けて取り組みを行っている。企業はリサイクルするのは時代遅れで、埋めたら土に還るといったことなどを考えながら環境に取り組んでいる。

木下委員：けいはんなの企業見学は可能でしょうか。

寺本英樹委員：町議会の議員の方がまちづくり協議会へ見学に来られている。

上甫木委員長：10 年以上前から、企業として子どもたちの職業体験を受け入れているのはすばらしい。

寺本英樹委員：中学生の職場体験は企業にとっては大変な負担であるが、意義があるので、協議会としては続けようと話している。

上甫木委員長：これからはまちづくり協議会とのコミットを深めていくことが出来ること

面白いのではないか。

事務局：企業や社員さんの取り組みが十分に把握できていないのが現状です。地域と企業が情報交換出来ていないので、まずは、そこから把握していきたいと考えています。

寺本英樹委員：一つの企業が木を植えると、他の企業も木を植える。そのような所である。

事務局：地域側も意識を高く持ち、より高めていければと思います。

寺本英樹委員：まちづくり協議会は専任の事務局がある。まずは、そこと連携していただければと思う。

山本委員：山田地域は山田川を中心とした村で、昔から田んぼが基幹産業で日当たりの良い所に田んぼを置いて、日当たりの悪い所に家を持ってきているような地域である。しかし、もう、現在では、高齢者が中心となり、山や山間部の田んぼの手入れに手が届かない。子どもの世代も外に出てしまって、別に家を構えている。家も老夫婦で毎年裏の山と戦いを続けている。あと数年すると山が迫ってくるような状況である。

井澤委員：谷の集落でも今度、大規模な開発が入るので山全体が無くなる。里山を保全するということは大変難しい。主人は最近、段々畑で菜の花が咲く道になる取り組みを行っているが、個人の努力だけでは追いつかない。集落ではどんどん空き家が増えていく状況である。

上甫木委員長：国の第5次環境基本計画では、地域循環共生圏の考え方が中心となっているが、それを精華町の中でも考えられる。里山の資源を地域として維持して、活用していることである。リーディングプロジェクトの里山の取り組みも実際にそれに関わった民間の関わりはどうだったのだろうかということや、この10年間の状況を、進んでいないことも含めて、可能な範囲で総括して次に繋げていければと思う。

井澤委員：女性の会の一員として、ごみは生活の中の一部であるということを強く感じる。これから計画について考える時に、その視点は大切だと思う。

上甫木委員長：第5章総括について何かお気付きの点などはありませんか。また、次の計画に向けて、このような点を整理しておけばという点があればお願いします。

事務局：また、お気づきの点がございましたら、随時、個別に環境推進課の方にご意見・ご提案をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

寺本英樹委員：日程についてですが、企業では、1年間の予定を予め出すので、企業のみなさんが出席しようと思えば、できるだけ日程を早くお知らせいただきたい。

上甫木委員長：各課の取り組みを総括できると良いと思う。他、何かございますか。この案件で終了にさせていただければと思います。日程的なことは、別途ご対応いただきたい。

上甫木委員長：それでは、本日の議題は以上ですので、進行を事務局にお返しします。

3. 閉会

事務局 : 2月に次回を予定している。本日はお忙しい中、長時間に渡り活発なご審議をいただき誠にありがとうございました。

(以上)